

校内研究計画

甲州市立玉宮小学校

1 学校課題

本校は、全校児童が25人と小規模の学校であるが、児童は、みんな明るく素直で、意欲的に学校生活を送っている。児童会の縦割り活動などを通して、学年の枠をこえた交流も多く、上級生が下級生の面倒をみながら、いろんな学年の児童が入り交じって、遊ぶ姿も見られている。

また、少人数である分、一人一人の児童の実態を把握し、一人一人に合った学習指導や対応が可能である。

その一方、幅広く思考することや多くの人の前で自分の考えを表現する体験の機会が少なく、苦手意識を持っている児童も見受けられる。ICTを介した他校との交流経験を数多くし仕組むことを通して、弱点を克服し、少人数であることの利点を増やしていきたいと考える。

2 研究主題

少人数学級の思考力・表現力・コミュニケーション力を高めるICT活用の工夫

～地域のよさを交流し伝え合う地域学習を中心に～

3 主題設定の理由

研究2年目の昨年度は、地域学習で身につけたことを画像や文でまとめ、秋の集会で地域の人たちや保護者に伝えたり、『「ふるさと山梨」郷土学習実践研究発表大会』で、玉宮小・大藤小・神金小3校のTV会議でお互いの地域について調べたことや資料作成の工夫、発表方法について交流を重た成果を発表したり、自分たちの学習成果を外に発信する活動を積極的に取り入れてきた。

研究3年目のまとめの年となる今年は、これまでの2年間に積み重ねてきた成果を深化、発展させ、地域の人材やICT及び3校のTV会議を活用して児童が学習した成果を地域の方々に発信することを通して、玉宮地域の伝統や文化、自然環境のすばらしさを地域全体で再確認することを目指す。

また、その過程や日頃の授業の中でICTをどのように活用することが少人数学級児童の思考力や表現力を高めるために有効に働くのか昨年度の実践を検証・改善・発展させ、少人数学級ならではのICTを活用した活用方法の確立を図ることを目指す。以上2つの観点から今年度本校では、上記の研究主題を掲げ、研究を進めていくこととした。

4 研究の具体的な内容と方法

○授業づくり

(1) 児童の実態把握

- ・NRTや学力診断テストの結果、「h-QU」などを活用して各学年児童の実態把握をし、学び合うために欠かせない学級集団づくりや思考力・表現力などの現状把握と手立ても含めた指導の方向性の検討を行う。

(2) 地域学習の深化・発展を図る。

- ・地域人材を活用した授業づくりを行う。
- ・ICTを有効に活用し、学んだことや考えたこと、地域に伝えたいことなどを考え、絵や図、表、文を使って表現する指導方法の研究を行う。
- ・児童や地域の方々が玉宮のすばらしさを再確認できるように児童の作成した資料をまとめ地域に発信する方法を考える。

(3) TV会議システムを活用した3校合同授業づくり

- ・テレビ会議システムの指導方法学習会を行う。
- ・児童の思考力・表現力・コミュニケーション力を高める学び合いの方法を研究する。
- ・テレビ会議で高められた思考力・表現力を使って自分たちの学習成果をICTを活用して資料にまとめる方法を検討する。

○学習基盤づくり

- ・全校を一集団としてとらえ、「h-QU」の結果を学校づくりに生かす。
- ・「玉宮小学習の約束」や「思考力・表現力アップ」など、学習基盤の検討・取組を行う。
- ・朝学習、スタンバイ（帰りの学習）、家庭学習の内容や方向性について確認し、学習習慣の充実を図る。
- ・メディアとの付き合い方を考える機会を設ける。（「アウトメディア週間」など）

年間校内研修計画

研究主任

古屋 岳治

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の 時期	TC 要請
研究の方向性の確認 学校課題・研究主題・主題設定の理由・研究仮説の検討		古屋			
研究の方向性の決定・学年の学習の方向性 前年度のICT利用状況の交流と今年度の方向性の確認 児童に付けたい力・家庭学習・学習規律の検討及び確認		古屋			
テレビ会議の機器の使い方・指導法学習会	ICTの活用	講師*1			
K13法及びQ-U検査の分析の方向性		海野			
h-QUの分析と今後の取り組みについて		海野	全		
県学力調査・全国学力調査の結果を受けて一校一実践について		滝島			
授業実践①	ICTの活用		未定		
教育課程環流報告 家庭学習・一校一実践について		各担当 滝島			
授業実践②	ICTの活用		未定		
授業実践③	ICTの活用		未定		
「ふるさと学習」発表会(仮名)に向けて 3校テレビ会議授業(6年生道徳:授業案検討)に向けて	ICTの活用	古屋 巖本			
「ふるさと学習」発表会・3校テレビ会議授業の最終確認		古屋			
「ふるさと学習」発表会 3校テレビ会議授業(6年生道徳)	ICTの活用	古屋 巖本		11月 月上旬	○ 予定
授業実践⑤	ICTの活用		未定		
実態調査結果の考察・各学年の課題の見直し 研究集録について・研究の成果と課題		古屋			
研究のまとめ		古屋			
研究集録作成作業		古屋			

*1 講師は、県立大学 八代教授

*TC要請についても3校協議のもと随時お願いをしていきます。

*授業実践は、上記実施時期が適切でない場合、教務と相談し時期を変更して実践を行う。

*「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」の取り組みを3校協議のもと随時進めていく。